

リーディングDXスクール事【実践事例修正】

吉川市立東中学校(埼玉県)

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

ねらい

市のデジタル・シティズンシップ教育に係る6つの項目を特任教育支援員が全小・中学校、全学年対象で授業を実施することで、市内児童・生徒全員にICTに係る知識や理解を深める。また、教職員研修も全校悉皆で実施し、教職員からの継続的な指導をねらいとしている。

一室からオンラインで複数学級一斉授業を実施



リーディングDXスクール事【実践事例】 吉川市立東小学校(埼玉県)

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

吉川市立東小学校・シティズンシップ教育のねらい

- 市内教職員及び児童・生徒の理解活用能力の育成とICTの活用
- 地域・学校・家庭の連携・協働の実現
- 専門家のデジタル・シティズンシップ教育でのリーダーシップ

市内各校小1～中3まで実施

①インターネットの特性・仕組みを学ぶ
②インターネットの設備を導入する
③インターネット上の窓口・仕組みを学ぶ
④インターネット上のトラブル・盗難にのらしない
⑤インターネット上の著作権・プライバシー・権利を守る
⑥デジタル・シティズンシップを学ぶ

市立東小学校 1年生
市立東小学校 2・3年生
市立東小学校 1年生
市立東小学校 2・3年生

スマートフォンの活用に関する指導の考え

デジタル・シティズンシップ教育の推進



個別
×
協働



多様性を理解した関係づくりができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



学校外の人・モノ・コトと積極的に繋がることできる

成果

全校共通して同様の指導を実施しているため、教職員と児童・生徒の間に共通認識ができていると感じている。また、ICTの活用について教職員が指導する際に、ただ、禁止するのではなく、「ICTを効果的に活用する」視点が身に付いてきている。

課題

専門家からの授業がその授業時間のみの単発授業のような形になってしまうと、児童・生徒への継続した指導が実施できなくなってしまう。今後は、学校職員がデジタル・シティズンシップについて、さらに研修を重ね、日常的に繰り返し指導ができるようにしていかなければならない。そのためには研修や授業終了後に校内職員で共通した指導を実施できるよう体制づくりを行う必要がある。